2026年10月吉日

一般社団法人 日本若者キャリア支援協会

MIRAI CREATOR'Z FES 2026 開催報告書

2026年9月14日（月）、ベルサール半蔵門において「MIRAI CREATOR'Z FES 2026」（第1回）を開催しました。
本報告書では、開催概要、当日の実施内容、選出者の属性、参加者アンケートの結果および今後の展望について報告します。



1. 開催結果の概要

451名が来場し、MIRAI CREATOR'Z選出者293名が参加しました。

挑戦する若者の活動を広く紹介するとともに、若者同士および若者と企業・団体との交流機会を創出することを目的として開催しました。交流機会の創出、参加者による高い満足度評価、若者の挑戦への理解と行動意欲、新たなつながりの実感という4点を主な結果として確認しました。

- **交流機会の創出：**451名の来場を得て、MIRAI CREATOR'Z選出者293名、若者ブース出展

22団体、企業ブース出展11社・団体が一堂に会する場を実現し、挑戦する若者同士、および若者と企業・団体が直接対話する機会を創出いたしました。
- **参加者による高い満足度評価：**アンケート回答者63名の総合満足度は5点満点中平均4.25点、上位2区分（「満足」「やや満足」）の合計は84%を占めました。
- **若者の挑戦への理解と行動意欲：**アンケート回答者の84%が若者の活動・挑戦への理解や新たな発見に関する設問に4点以上を回答し、75%が今後の行動に前向きな意向を示しました。
- **新たなつながりの実感：**アンケート回答者の79%が新たな交流やつながりの発生を実感したと回答し、「新たな人・企業・団体とのつながり」を挙げる声が最多となりました。

---

2. イベント概要

イベント名	MIRAI CREATOR'Z FES 2026
開催回	第1回
開催日時	2026年9月14日（月）13:30 〜 19:30
会場	ベルサール半蔵門
主催	一般社団法人日本若者キャリア支援協会
来場したMIRAI CREATOR'Z選出者数	293名
若者ブース出展団体数	22団体
企業ブース出展数	11社・団体

本イベントの特徴は、表彰式（授賞式）に加え、選出者による活動発信や参加者同士の交流を促進するため、以下のコンテンツを実施しました。

MIRAI CREATOR'Z表彰式：約1,500名のMIRAI CREATOR'Zの中から選ばれたTOP CREATOR'Z 10をはじめとする受賞者の発表に加え、企業が提供する特別賞を授与しました。選出者の挑戦と成果を社会に紹介し、称える機会としました。

- **フォトブース（選出者限定）**：選出者が活動紹介や対外的な発信に活用できるプロフィール写真を撮影する機会を提供しました。
- **転生展（選出者限定）**：MIRAI CREATOR'Z応募時に記入した「将来の自分からの手紙」を受け取れる体験コンテンツです。選出時の想いを振り返り、次の一歩を考えるきっかけになります。
- **KamoTalk（選出者限定）**：AIが交流相手の候補を提案するオンラインツールを提供しました。選出者のキャッチコピーなどを通じて、それぞれの活動を可視化するとともに、多様な挑戦に触れられる構成としました。

- **選出者パネル**：約1,500名の選出者を一覧で紹介する展示パネルです。自分のキャッチコピーが並んで可視化されるとともに、同世代の多様な挑戦を知ることができます。
- **若者ブース**：22団体が自らの活動をブース形式で発信しました。焚き火をモチーフにしたワークショップや、来場者が自分の夢を書き込む参加型ボードなど、表現方法も多彩でした。来場者との直接対話を通じ、活動を広く紹介する機会となりました。
- **企業ブース**：11社・団体が出展し、幅広い来場者と直接対話しました。活動分野や所属の異なる参加者が相互理解を深める機会となりました。
- **オープニング・エンディングパフォーマンス**：歌唱等によるステージ演出を実施し、イベント全体の一体感を醸成しました。
- **来場者同士の交流**：閉会後に約1時間の交流時間を設け、選出者や企業・団体関係者などの参加者同士が名刺交換や対話を行いました。

これらの設計により、「顕彰・称賛の場」であると同時に、若者が自らの活動を発信し、新たな出会いを次の挑戦につなげる「交流・接続の場」としての機能を持たせました。

---

3. 当日の実施状況

3-1. 会場を埋め尽くした挑戦の記録

約1,500名のMIRAI CREATOR'Z選出者のプロフィールを会場内の壁面に掲示しました。来場者が自身や知人の掲載情報を確認するとともに、自分の名前とともに写真を撮ったり、知人の名前を探したり、見知らぬ挑戦者のプロフィールに見入ったりしていました。





3-2. 若者ブースでの交流

22団体が出展した若者ブースでは、焚き火をモチーフにしたワークショップで仲間を集める団体や、来場者が自身の夢を「火種」に記入して掲示する参加型展示などが行われました。
会場の通路には途切れることなく人が行き交い、ブースの前で足を止める来場者の姿が見られました。







3-3. 来場者同士の交流

閉会後には約1時間の交流時間が設けられ、選出者同士に加え、企業・団体関係者と選出者の間でも名刺交換や対話が行われました。企業・団体の担当者と選出者が真剣な表情で語り合う様子、初対面同士が笑顔で盛り上がる様子など、活動分野や所属の異なる参加者が互いの取り組みを紹介し、交流を深める様子が見られました。








3-4. 表彰式のハイライト

表彰式には8名の審査員が登壇し、「TOP CREATOR'Z 10」をはじめとする受賞者に賞状が授与されました。会場の熱気は、エンディングパフォーマンスまで途切れることなく続きました。

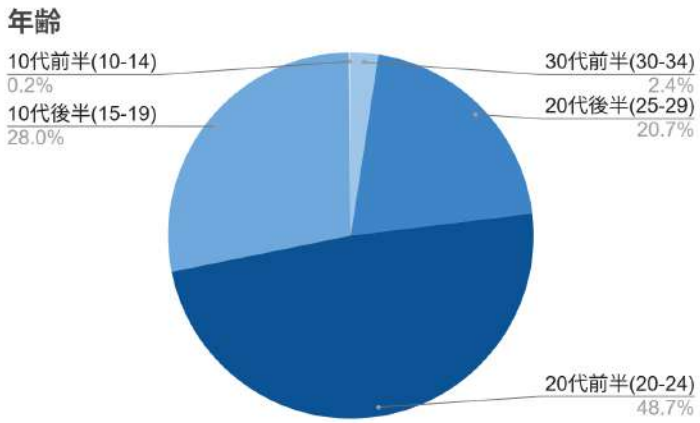




4. 2026年の選出状況

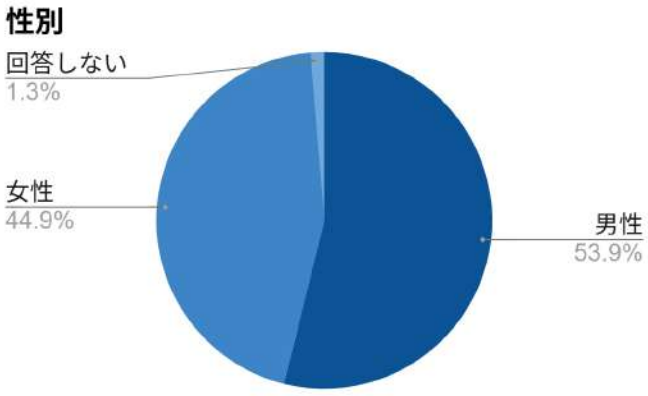
MIRAI CREATOR'Zでは、約1,500名の若者を選出しました。
本章では、選出者に関する登録情報のうち、各項目の集計に必要な情報が得られたデータを対象として、年齢、性別、所属、活動地域および活動領域の傾向を整理します。

4-1. 年齢



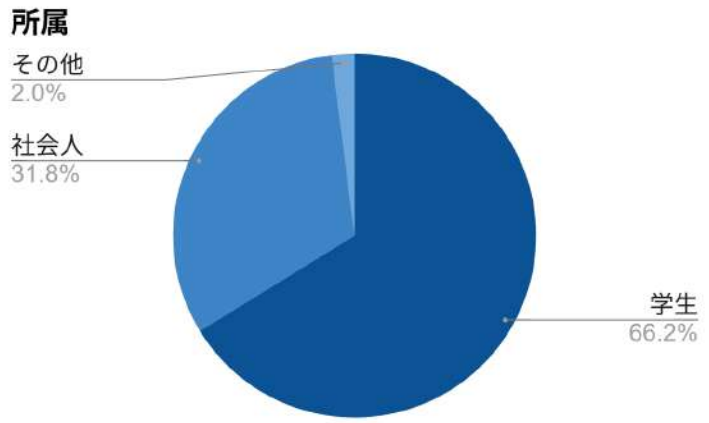
選出対象は30歳以下の若者で、最年少は14歳でした。
「20代前半」が48.7%と最も多く、次いで「10代後半」が28.0%でした。「4-3.所属」で後述する、選出者のうち過半数を学生が占めていたこともこの結果に影響していると推察します。
10代前半に該当する選出者（中学生）も0.2%含まれていました。

4-2. 性別



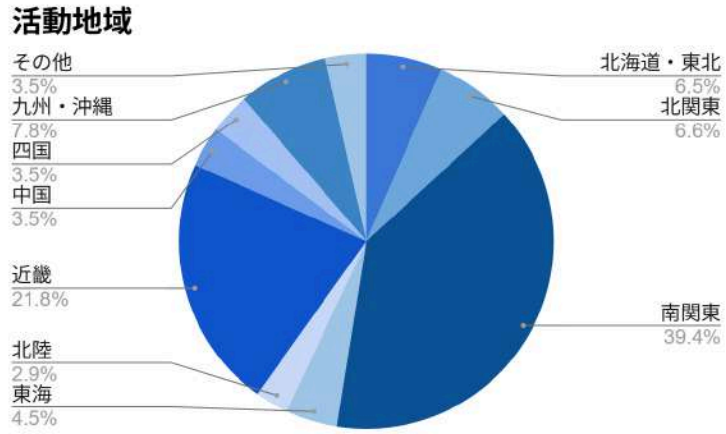
性別の構成比は、男性53.9%、女性44.9%、回答しない1.3%でした。

4-3. 所属



所属別では、学生が66.2%と最も多く、次いで社会人が31.8%でした。学生団体における活動で選出されているケースが多く見受けられました。学生団体の代表者だけでなく、役職のないメンバーも選出者となっていたことは特筆すべき点といえます。
社会人には、経営者、個人事業主、フリーターなどと回答した選出者が含まれます。選出された活動が本業である人だけでなく、副業として取り組んでいる人もいました。
「その他」には、ギャップイヤー、無職、社会人学生、アーティスト、旅人などの回答が含まれています。

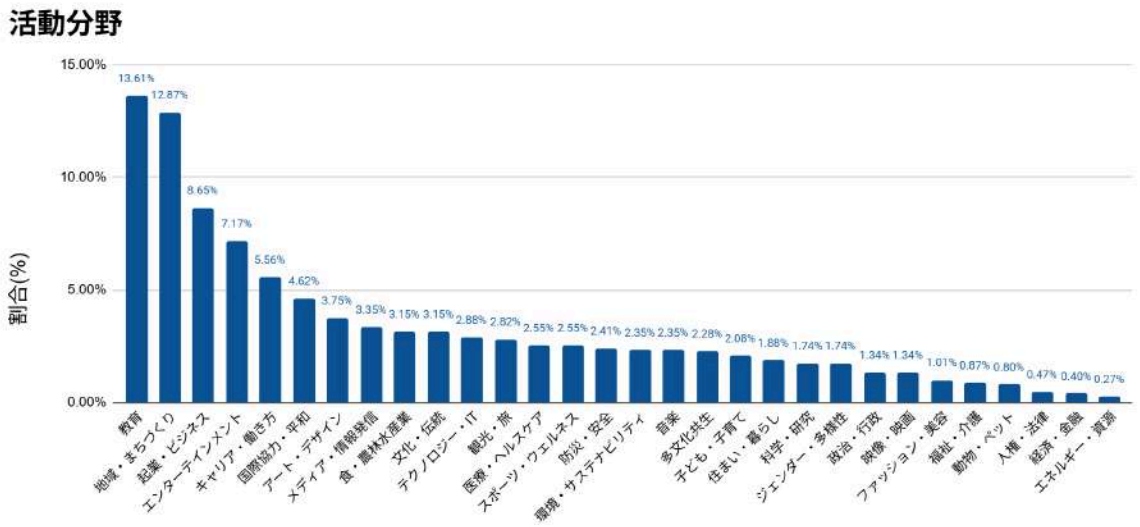
4-4. 活動地域



集計地域は、下記10地域に分類しました。
①北海道・東北（北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島、新潟）
②北関東（茨城、栃木、群馬、山梨、長野）
③南関東（埼玉、千葉、東京、神奈川）
④東海（静岡、岐阜、愛知、三重）
⑤北陸（富山、石川、福井）
⑥近畿（滋賀、京都、奈良、和歌山、大阪、兵庫）
⑦中国（鳥取、島根、岡山、広島、山口）
⑧四国（徳島、香川、愛媛、高知）
⑨九州・沖縄（福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄）
⑩その他（海外）
＊本報告書における独自の集計区分

「南関東」が最も多く、39.4%を占めていました。次いで多かったのは「近畿」で21.8%でした。都道府県別では東京都が30.1%、大阪府が11.3%、神奈川県が6.1%でした。
47都道府県すべてから選出者が確認されました。
地域にかかわらず、活動する若者を広く選出することができました。

4-5. 活動領域



活動領域は、「教育」13.6%や「地域・まちづくり」12.8%と比較的高い割合を占めました。 全体として「人や地域の未来をサポートできる領域」から選出される方が多い結果でした。これらの領域で活動している人たちは、MIRAI CREATOR'Zのコンセプトに共感しやすく、結果的に多く集まった可能性が考えられます。
設定した全領域で選出者がおり、幅広い領域の若者を選出できたといえます。
一方、「エネルギー・資源」「経済・金融」「人権・法律」などの領域からの選出者は相対的に少数でした。これらの領域においても頑張る若者はたくさんいますが、今回の募集・推薦経路やコンセプトの伝え方が十分に届いていなかった可能性があると考えています。今後は、これらの領域の若者にも届く発信・選出のあり方を検討いたします。
引き続き、各領域で活動する若者が直面する課題の把握と支援を実施いたします。

---

5. 参加者の声

5-1. 受賞者・参加者の声（一部抜粋）

- 応援してくれる人がいる、認めてくれる人がいる、刺激しあえるいろいろな分野で頑張っている仲間がいることを実感でき、翌日からのモチベーションにつながる一日となった
- 自分がまだ何者でもなく、ただただ活動を走らせている時に、光を当ててもらえた。横のつながりもでき、いろんな意味でこれからの人生に大切な一日になった
- それぞれの活動や夢を持ったたくさんの人たちに出会えて、あっという間なイベン

トだった。有給を取ってまで参加して本当に良かった
- KamoTalk、新鮮で素晴らしい仕組みだと思った。交流の機会も充実しており、終始楽しむことができた

当日運営に携わったスタッフや受賞に至らなかった参加者からも、交流の経験や今後の活動への意欲に関する声が寄せられました。

- このフェスはお偉いさんの話をダラダラと聞くものだと思っていた。入ったらブースと人がたくさん、ほとんどの時間を選出者同士の交流に使った。トビタテ生、登録者100万人超のYouTuber、14歳の若き逸材、東大生まで……沢山の素晴らしい方々との会話を通して、自分の研究へのモチベーションがより深くなった。『この場に行ったから自分は変われた』と言い切れるように、これからも邁進していきたい

5-2. 参加者の声から捉えた本イベントの意義

「応援してくれる人がいる」「刺激しあえる仲間がいる」「光を当ててもらえた」という言葉が、立場の異なる複数の参加者から共通して語られたことは、本イベントが目指した"挑戦する若者同士の可視化・接続"という狙いが、参加者自身の実感として届いていたことを示しています。特に印象的なのは、受賞に至らなかった参加者やスタッフからも「この場に行ったから自分は変われた」という前向きな声が寄せられている点です。本イベントの価値が、表彰という結果だけでなく、当日その場に集った人同士の出会いや対話そのものにあったことがうかがえます。

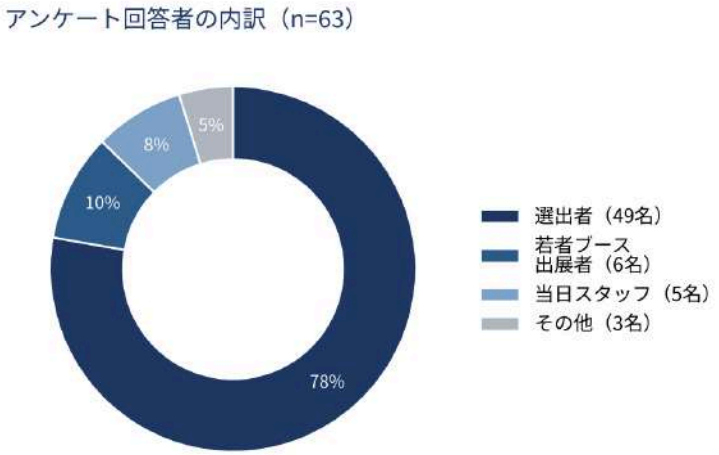
5-3. 参加者の声の収集方法

本レポートは、公式アンケート（63件の回答）に加えて、当日のSNS投稿や、運営関係者、出展企業・団体等に個別に寄せられたメッセージを参照しています。一つの集計結果だけでなく、立場やタイミングの異なる声を重ね合わせることで、イベント当日の実感により近い形でお伝えすることを心がけました。

6. アンケート集計結果（当日の会場評価）

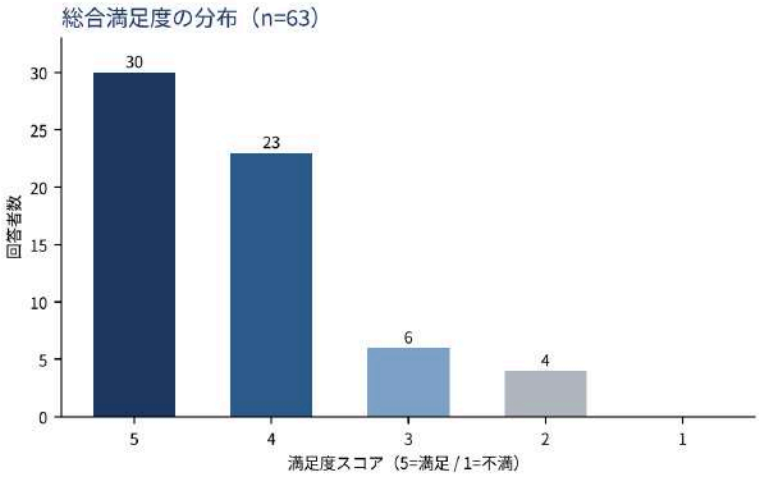
6-1. 回答者の内訳

回答者63名の内訳は、選出者49名、若者ブース出展者6名、当日スタッフ5名、その他3名です。
回答者の約78%を選出者が占めており、以下の結果は主として選出者による評価を反映しています。また、出展者・スタッフという異なる立場からも一定数の回答が得られており、イベントを複数の視点から評価できるデータになっています。



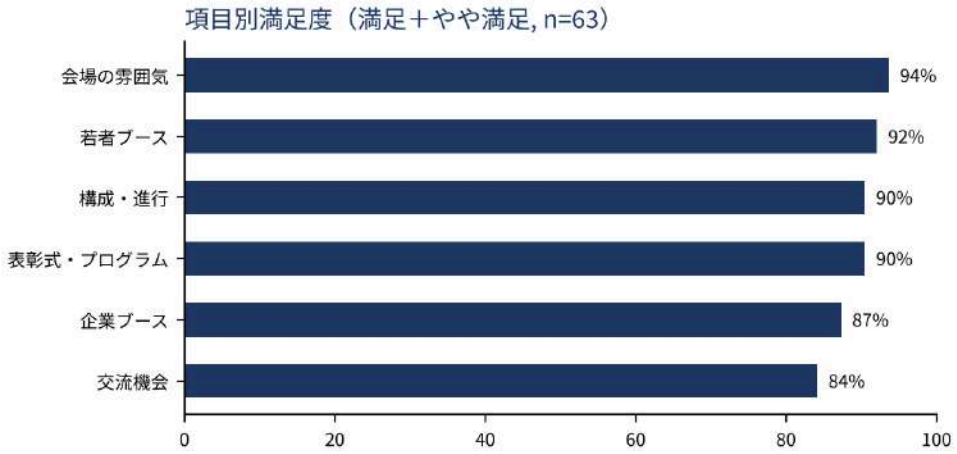
6-2. 総合満足度

総合満足度は5点満点中平均4.25点となり、「満足」「やや満足」に相当する4点以上の回答は84%にのぼりました。一方で、2点以下の回答も4件ありました。高い評価が得られた一方で、満足度の改善に向けた検討課題も確認されました。



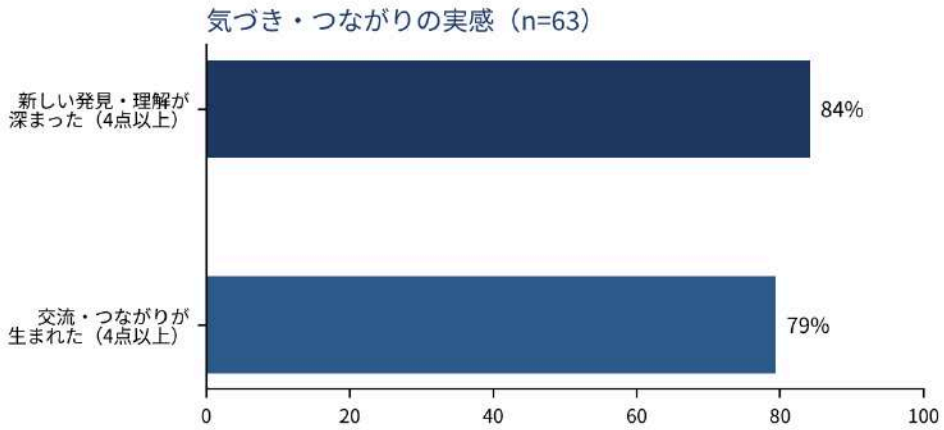
6-3. 項目別満足度

項目別に見ると、「会場の雰囲気」94%、「若者ブース」92%、「イベント全体の構成・進行」「表彰式・プログラム」がそれぞれ90%と、いずれも9割前後の高い満足度を記録しました。一方で「交流・コミュニケーションの機会」は84%と、他の項目に比べてやや低い結果となっています。これは、イベントそのものへの評価が高かった一方で、「もっと多くの人と話したかった」という参加者の期待の高さの裏返しでもあり、交流機会の拡充は、次回開催に向けた検討課題の一つと考えられます。



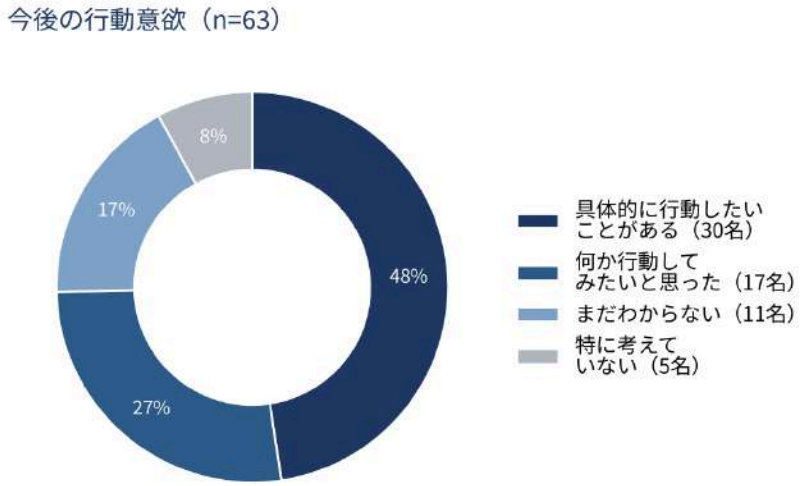
6-4. 気づき・つながりの実感

「若者の活動・挑戦について新しい発見や理解が深まったか」という問いには84%が、「若者や企業・団体との交流・つながりが生まれたか」という問いには79%が、5点満点中4点以上と回答しました。両者がほぼ同水準で高い結果となったことは、本イベントが単なる"見る・聞く"イベントではなく、参加者自身の理解の深化と、新たな関係構築の両方を同時に実現できていたことを示しています。表彰式や展示を通じて若者の挑戦を知るだけでなく、その場で実際に出会い、つながるところまで設計が機能していたと言えます。



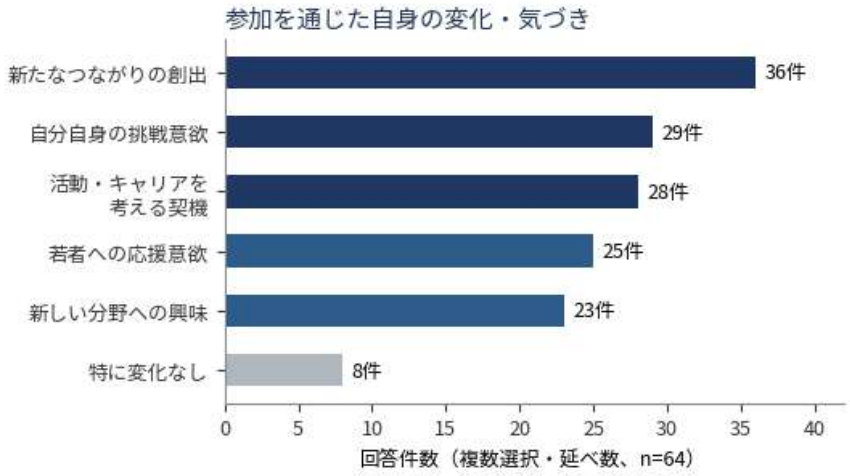
6-5. 今後の行動意欲

「具体的に行動してみたいことがある」（48%）と「何か行動してみたいと思った」（27%）を合わせると、回答者の75%が本イベントを契機に何らかの行動を起こしたいと回答しています。一度きりの体験で終わらせず、参加者自身の次のアクションにつながる仕掛けとして、本イベントが機能していることがうかがえます。



6-6. 参加を通じた自身の変化・気づき（複数選択）

複数選択式の設問では、「新たな人・企業・団体とつながるきっかけになった」が36件と最も多く挙げられ、次いで「自分自身も何かに挑戦してみたいと思った」（29件）、「自分の活動やキャリアについて考えるきっかけとなった」（28件）と続きました。「つながり」と「挑戦意欲」が上位を占めたことは、6-4節で確認した"理解と接続の両立"を裏付けるものであり、本イベントの核心的な価値がどこにあったかを端的に示す結果となっています。



7. 企業・団体との連携

7-1. 参画形態と実績

本イベントには、企業・団体がブース出展、審査員としての参画、特別賞の提供という主に3つの形態で参画しました。

ブース出展（8ブース・11団体）

ブース	テーマ	出展企業・団体
GAKUFUN AWARD × NAHATO	あなたの夢中を撮影しSNSで発信	・株式会社Relie ・株式会社ナハト
BLAST! SCHOOL	挑戦を形にする事例とメソッドを紹介	株式会社Blast School
若者の未来と好奇心	若者の未来と好奇心をテーマに出展	・一般社団法人日本若者キャリア支援協会 ・一般社団法人BEAU
起業家アート協会×NEXT MOVE JAPAN	自分の思いを自由に描くアート体験	・一般社団法人起業家アート協会 ・一般社団法人NEXT MOVE JAPAN
横浜エクスポ若者実行委員会／横浜市	リボンモニュメント制作体験	横浜エクスポ若者実行委員会／横浜市
地域活性化プロジェクトのリアル	活動メンバーによるプロジェクト紹介	一般財団法人こゆ地域づくり推進機構
プリントサービス紹介	選出者向け特別価格のサービス案内	株式会社サムライソード
体験企画・製品展示	学生インターンとの交流、自社製品展示	株式会社ヨミテ

審査員（8名）
内堀繁利氏（信州大学教育学部特任教授　前長野県教育委員会教育長）
西井美保子氏（株式会社電通　第6マーケティング局シニアブランディングディレクター及び電通若者研究部主任研究員）
吉田大一氏（株式会社Blast School 代表取締役CEO）
村瀬龍馬氏（株式会社MIXI 取締役上級執行役員CAIO）
水野雄介氏（ライフイズテック株式会社 代表取締役CEO）
橋田一秀氏（OASIS FUND 代表パートナー）
川上裕太郎氏（株式会社ユーザベース 専門役員　グロースパートナー事業本部 事業統括）
赤木翔氏（株式会社東京ドーム enXross事務局代表）

特別賞提供（15団体）
一般社団法人ウィルドア、KLP合同会社、SHIBUYA QWS、NPO法人新公益連盟、一般財団法人こゆ地域づくり推進機構、住友不動産株式会社、TSUNAGARU NIPPON PROJECT、enXross by TOKYO DOME、日本大学文理学部次世代社会研究センター(RINGS)、株式会社NEO、パーソルキャリア株式会社(HiPro)、株式会社ベースミー、一般財団法人防災教育推進協会、地域経済創発プロジェクトPOTLUCK YAESU、株式会社ヨミテ









7-2. 企業・団体関係者からの声（一部抜粋）

「イベントの運営が素晴らしく、エンターテインメントに携わる者として見習いたいと感じました」

「内輪感が少なく、参加者同士の自然な交流が生まれていました。KamoTalkのような仕組みが、コミュニケーションを生む装置として有効に機能していたと思います」

「選出者の人数が約1,500名と非常に多く、規模の大きさに驚きました。NEXT CREATOR'Z 100に選出された方々は全体的にクオリティが高く、エッジの効いた人選だったと思います。スポンサーを集め、ベルサールという大型会場でイベントを実現したこと自体が素晴らしい取り組みだと感じました」

7-3. イベント後も続くつながり

特別賞を提供した企業・団体の中には、イベント終了後も受賞者との連絡・交流を継続している例が見られます。表彰の場を一度きりの顕彰で終わらせず、継続的な関係構築のきっかけとして活用いただいている点は、本イベントが目指す「若者と企業・団体の接続」が、今後の協働や支援の機会へと発展する可能性があります。

---

8. まとめと今後の展望

MIRAI CREATOR'Zは、若者を表彰する一日限りのイベントではなく、**挑戦する若者を発掘・可視化し、若者同士や企業・団体とのつながりを新たな機会へと発展させる仕組み**を目指してまいります。

第1回では、293名のMIRAI CREATOR'Z選出者をはじめ、多様な領域で挑戦する若者が集まりました。今後は、このネットワークをさらに広げるとともに、特に以下の2点を重点的に推進してまいります。

① 企業・団体との連携を拡大し、若者の「次の機会」をつくる

今回のFESでは、企業ブースや特別賞、当日の交流を通じ、若者と企業・団体との間に新たな接点が生まれました。今後はこうした接点をイベント当日だけのものにせず、企業・自治体・教育機関・メディア等との連携を拡大し、MIRAI CREATOR'Zに集まった若者が次の挑戦へ進むための機会につなげてまいります。

プロジェクトへの参画、企業との共創、活動場所・発信機会の提供、メンタリングなど、選出者の活動内容や成長段階に応じた多様な機会を整えることで、**選出されることをゴールではなく、新しい挑戦のスタートにする**ことを目指します。

② 集まった若者を分析し、「次世代の現在地」を可視化する

MIRAI CREATOR'Zには、地域、教育、環境、テクノロジー、文化・エンターテインメントなど、さまざまな領域で活動する若者が集まっています。今後は、選出者の活動領域や地域、関心テーマ、挑戦のきっかけ、抱えている課題などのデータを継続的に蓄積・分析してまいります。

単なる参加者属性の集計にとどまらず、「今の若者は何に問題意識を持ち、何を生み出そうとしているのか」「次の世代から、どのような活動や価値観が生まれ始めているのか」を明らかにし、社会に発信していくことを目指します。

企業・自治体等が若者の活動への理解を深め、協働の可能性を検討するための基礎資料として、これからの社会をともにつくるパートナーとして理解するための情報の整理と発信方法の充実を図ります。

MIRAI CREATOR'Zを、若者と社会をつなぐ基盤へ

今後も、全国から挑戦する若者を発掘し、その活動を称え、若者同士をつなぎ、さらに社会との接点を生み出していきます。**「挑戦する若者が見つかる場所」であり、「次世代の動きが見える場所」であり、「若者の挑戦が次の機会につながる場所」であること。**MIRAI CREATOR'Zを、若者と社会の新たな接点となるプラットフォームへと育ててまいります。

今後とも「MIRAI CREATOR'Z」へのご支援・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

本取り組みにご参画いただける企業・団体を募集しています

MIRAI CREATOR'Zは、挑戦する若者と、その挑戦を応援する企業・団体をつなぐ取り組みです。本イベントでは、ブース出展、審査員、特別賞の提供という3つの形で、多くの企業・団体にご参加いただきました。今後も、若者との出会いや接点づくりを通じて、若者の挑戦を支え、新たな活動機会をともに創出する企業・団体の皆さまとの連携を進めています。

関わり方は、上記に限らずご相談いただけます。
ご検討段階からのご相談も歓迎しております。

お問い合わせ

一般社団法人日本若者キャリア支援協会
https://jyc-official.org/contact

以上